

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和7年11月28日（金）

### 2 確認箇所

共用プール建屋（図1）

### 3 確認項目

5号機使用済燃料の取り出し状況

### 4 確認結果の概要

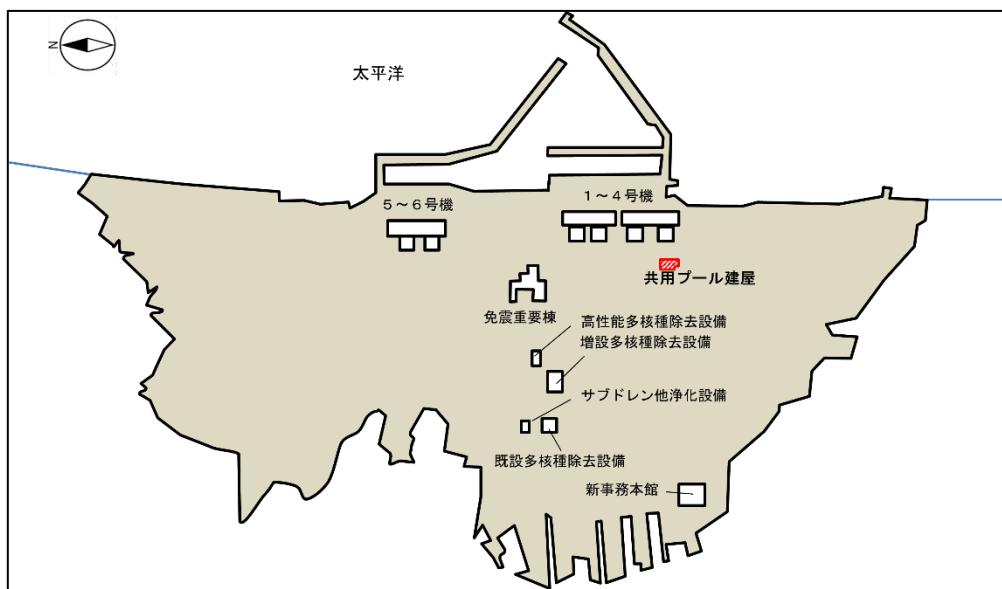
東京電力は、中長期ロードマップの目標である令和13年内の1～6号機燃料取り出し完了に向け、5号機の使用済燃料プールに保管されている使用済燃料の取り出しを令和7年7月23日に開始した。

県では、使用済燃料取り出し作業の状況を適宜確認している。前回は、5号機使用済燃料プールに保管されている使用済燃料を輸送用キャスクへ装填する作業状況を確認した。

今回は、輸送用キャスクから使用済燃料を取り出し、共用プール建屋内の使用済燃料プールへ移送する作業を確認した。併せて、使用済燃料の保管状況及びその周辺状況について確認した。（前回確認：令和7年11月17日）

- ・5号機から輸送されてきた使用済燃料を装填した輸送用キャスクは、使用済燃料プール内に設置されていた。
- ・燃料取扱機ホイストを用いて、輸送用キャスクから使用済燃料を1体ずつ把持し移動させ、使用済燃料プール内の燃料ラックに収納していた。なお、使用済燃料は極めて高線量であることから、常に水中で取り扱い、水による遮へいを確保した状態で作業が実施されていた。（写真1）
- ・燃料取扱機上や使用済燃料プール近傍、燃料取扱機操作卓等の各所に人員が配置され、使用済燃料の把持状態等を確認しながら慎重に作業が進められていた。
- ・使用済燃料プールのプール水はオーバーフロー※水位付近にあり、水面に異物は確認されなかった。周囲は整理整頓されており、確認した範囲において管理状況に問題はなかった。（写真2）
- ・共用プール建屋の地下階には、使用済燃料プールからの漏えいを検知するための装置（漏えい目視箱）が設置されており、確認時に異常は認められなかった。（写真3）

※ オーバーフロー水位：使用済燃料プールにおいて、冷却系が適切に運転している状態を示す基準水位。この水位を超えてオーバーフローした水は、スキマサージタンクに流入し、熱交換器やろ過器を通過したのち、再び使用済燃料プールへ戻される。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
燃料取り扱い作業の状況①



(写真1-2)  
燃料取り扱い作業の状況②



(写真1－3)  
燃料取り扱い作業の状況③



(写真2－1)  
使用済燃料プールの状況



(写真2－2)  
使用済燃料プール周囲の状況



(写真3)  
漏えい目視箱の状況

## 5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。